

平成28年度
第3回岡山市基本政策審議会
会議録

日時：平成28年11月14日（月）10：00～11：50

場所：岡山市役所本庁舎3階第3会議室

平成28年度第3回基本政策審議会 出席者

あべ 阿部	のりこ 典子	NPO法人みんなの集落研究所首席研究員
いずみ 泉	ふみひろ 史博	株式会社中国銀行相談役
おかもと 岡本	れいこ 玲子	大阪大学大学院保健学専攻総合ヘルスプロモーション科学講座教授
かたやま 片山	ひろこ 浩子	NPO法人岡山市日中友好協会会長
こしむね 越宗	たかまさ 孝昌	株式会社山陽新聞社代表取締役会長
しおみ 塩見	まきこ 槿子	岡山市連合婦人会会長
すぎやま 杉山	しんさく 慎策	就実大学経営学部学部長
せいた 清板	よしこ 芳子	ノートルダム清心女子大学大学院人間生活学研究科教授
はまだ 浜田	じゅん 淳	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科教授
ふじわら 藤原	けいこ 恵子	株式会社フジワラテクノアート代表取締役社長

敬称略五十音順

開会

1 開会

○事務局（植月） 定刻が参りましたので、ただいまより平成28年度第3回岡山市基本政策審議会を開催いたします。開会に当たりまして、越宗会長からご挨拶をいただきます。

2 会長あいさつ

○越宗会長 皆さん、おはようございます。委員の皆様には、お忙しい中ご出席いただきまして、ありがとうございます。本日、本年度第3回目の審議会ということでございます。本日は長期構想を実現するための前期中期計画の素案という形ですが、事務局のほうから提示をされております。

第2回、前回は8月8日だったのですけれども、このときは前期中期計画、分野別計画のたたき台につきまして、委員の皆様からご意見、ご議論をいただきました。今日は前回の議論を踏まえまして、これを当局においてブラッシュアップした分野別計画、これを中心に、その総論の部分等を加えました中期計画全体の案が提示されておりますので、前期中期計画の策定に向けましては、本日が最後の審議となる予定でございます。どうぞ委員の皆様には、それぞれの立場でご意見を賜りまして、実りある議論を交わしていただきたいと、そのようにお願いを申し上げます。

それでは、よろしく願いいたします。

○事務局（植月） 続きまして、本日の委員の皆様の出席状況ですが、5名の委員の方がご都合によりご欠席でございます。なお、基本政策等に関する審議会設置条例第6条第2項に規定する委員過半数のご出席をいただいておりますので、当審議会は成立しております。

本日の司会を務めさせていただきます総合計画課課長補佐の植月でございます。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、本審議会設置条例第6条第1項により、本審議会の議事運営につきましては越宗会長をお願いいたします。

○越宗会長 ちょっと申し遅れましたけれども、委員の藤原さんが渋滞等のご事情で遅れますので、もう間もなくお見えになると思いますが、始めさせていただきます。

それでは、着席して進めさせていただきますが、会議次第に沿って議事を進めたいと思います。

では、いつものように、議事に入ります前に傍聴の取り扱いについて事務局から説明を

お願いいたします。

○事務局（植月） 本日は、現時点で傍聴希望者が1名いらっしゃいます。特に支障がなければ傍聴の許可をいただきますとともに、本審議会を公開といたしまして、この後、傍聴希望者が来られた場合につきましても傍聴の許可をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

○越宗会長 ただいまの説明のように、本日の審議につきまして1名の傍聴者がいらっしゃるということですが、特に傍聴の支障になる事由はないと思われまので、公開にしたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしゅうございますか。

〔異議なし〕

○越宗会長 それでは、本日、傍聴希望者に傍聴を許可したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○事務局（植月） はい、それでは入っていただきます。

3 協議事項（1）岡山市第六次総合計画 前期中期計画 素案（案）について

○越宗会長 それでは、会議次第に沿いまして、議事を進めたいと思います。

協議事項の（1）であります。岡山市第六次総合計画前期中期計画につきまして、これから協議をしたいと思えます。まず、資料の説明を事務局のほうからお願いいたします。

○事務局（門田） おはようございます。政策局総合計画課の門田でございます。申しわけございません。座って説明をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

お手元に資料1から資料3までお配りさせていただいているかと思います。それで、資料1のところを、細かい話で恐縮でございますが、素案（案）ということで、素案の案という形でお示しをさせていただいております。本日のご審議をいただいて、必要な修正等をした上で、正式に素案として今月中に市議会、市民の皆様にお示しして、さまざまな議論や多くの方からのご意見をいただいた上で、最終の案を取りまとめていきたいと考えております。

それでは、まず資料1をごらんください。表紙をめくっていただきますと、まず目次がございます。中期計画は、まず総論、それから分野別計画、区別計画と3部構成で考えております。まず、総論から説明をさせていただきます。7ページをごらんください。

まず、計画の基本的な枠組みということで、計画の構成や計画の期間について記載をしております。一番下の図をごらんください。今年3月に策定した長期構想は、平成37年度

までの10年を期間としております。この構想を実現するための具体的な施策展開を示すというのが中期計画ということで、中期計画には分野別計画と、これを補完する区別計画とがございまして、現在策定を進めているのは前期中期計画ということで、平成32年度までとなっております。そして、この平成32年度には、前期中期計画の取り組み状況を評価、検証した上で、後期中期計画を策定するというところで考えております。

8ページをごらんください。計画の進行管理ということで、中期計画はPDCAの考え方で進行管理を行っていきたいと考えております。30の政策ごとに成果指標を設定して、その達成状況を把握する。それから、各施策のもとで実施する取り組みとか、具体的な事業の進捗状況を把握して、そういったものをきちんと評価した上で、必要に応じた見直しや重点化を検討し、次年度の予算に反映していくというようなことを繰り返していくということで考えております。また、毎年度評価を行う際には、執行部の自己評価ということが基本になるかとは思いますが、この基本政策審議会の間を活用させていただくことも想定いたしております。そうしたことも踏まえて、毎年度、取り組み状況を市民の皆様に対し公表していきたいと考えております。

それから、9ページをごらんください。人口の見通しにつきましては、長期構想策定のときの議論でいろいろお示しをいたしました。本日ここに書いてあるものは、厳密にはそれと少し異なっております。以前使った資料は、平成22年の国勢調査までの結果で推計しておりましたが、ここでは平成27年国勢調査の速報値を反映したものとなっております。若干数字が上方修正されておりますが、平成32年をピークに人口減少に突入するという大きな見通しは全く変わっておりません。

なお、先月、国勢調査の27年の確定値、詳しいものが発表されました。これによりますと、岡山市の27年度の総人口は71万9,474人ということで、四捨五入すると719になりまして、こことまた少しずれが生じてまいります。この前発表された確定値の中には、男女別の5歳ごとに区切った人口とか詳しい資料がございまして、それに基づいて今再度、推定作業を急ピッチで行っているところとございまして、新しい推計が出れば、またここを差しかえたいと思っております。ただ、先ほど申しましたように、大きな見立てが変わるということはないと考えております。

それから、10ページをごらんください。長期構想では、コンパクトでネットワーク化された都市づくりを進めるという考え方を述べておりましたが、これを受けてより具体的なイメージをお示ししているのが、この「将来の都市の形」というページでございます。隣の11ページには、「マスカット型都市構造」というふうに愛称をつけておりますが、模式図も掲載いたしております。周辺地域と都心が調和して、持続的に発展できる都市づくりを進めるためには、1つ目には周辺地域に活力ある拠点を形成することが重要と考えておまして、そのことについて10ページのゴシックであります方向性1の拠点の形成というところに記載いたしております。それから、2つ目としては、都心、拠点、地域生活圏内の各エリアがネットワークで結ばれることが重要ということで、これにつきまして

方向性2のネットワークの形成というところに記載をいたしております。

この拠点の形成、それからネットワーク形成、この2つを両方きちんとやることで、日常的なサービスについては地域の拠点を中心に、より高次のサービスは都心で受けることができ、多様な人・物・情報が活発に行き交い、持続的に発展する都市の形成が可能になると考えております。そして、それをベースにした上で、周辺市町や国内外の諸都市とも交流・連携を深め、機能や役割を補完し合いながら都市の発展を目指していくということをしていきたいと考えております。

まず、方向性1の拠点の形成でございますが、そこに表があるかと思えます。都心も拠点の1つということございまして、市全体や都市圏の発展を牽引するのが都心拠点ということになります。周辺地域の拠点につきましては、今回お示ししている案では、都市拠点、それから地域拠点と2種類の拠点を設定しております。まず、都市拠点でございますが、これは都心を補完する役割を持つということで、各種の商業施設、一定規模を有する医療施設、金融機関の支店などの都市的サービス機能を有した拠点ということでございます。11 ページの図で言いますと、ちょっと大き目の丸でございますが、東区の西大寺、中区で浜・原尾島、南区の岡南地区、それから北区では都心以外に西部新拠点と従来よく言っておりましたが、北長瀬、このあたりを都市拠点にしていく必要があると考えております。

それから、この4カ所以外の小さいオレンジが全部で15ございまして、地域拠点ということございまして、日常的な買い物施設、それから診療所などの医療施設、郵便局などの金融機関といった日常生活サービス機能を有する拠点ということでございます。

それから、ネットワークの形成のところですが、一番大切なのは交通ネットワークということございまして、とりわけ都心と周辺地域の拠点をつなぐ連携軸。連携軸は11 ページの図では太い矢印で表記をしておりますけれども、この連携軸における公共交通の利便性向上が重要となります。これを補完するものとして道路整備も推進していく必要があるということでございます。

11 ページの図のマスカットの一粒一粒に相当するものが、市民の日常生活の行動範囲である地域生活圏をあらわしておりますが、この地域生活圏の中では、11 ページの右下の地域生活圏内のイメージという図にありますように、徒歩・自転車・自動車・生活交通等も含めた交通ネットワークということが1つございます。それに加えて、福祉・子育て・教育・防災・防犯などの地域活動を協働して取り組むための地域コミュニティに根差したネットワークづくりも進めていく必要があると考えております。それらをベースにして、先ほど申し上げましたように、広域交流拠点として周辺市町や国内外の諸都市とのネットワークも強化していくという考え方でございます。

以上が総論の説明でございます。

続いて、分野別計画の説明につきましては、資料2に見え消し版をご用意しておりますので、こちらで説明をさせていただきたいと思えます。前回ご議論いただいたたたき台か

らの追加・修正を赤字で記載をいたしております。また今回は、政策単位で設定する成果指標についても、その指標名の案をお示ししております。具体的な数値については、申しわけございません、現在鋭意精査中でございます、本日のところは空欄となっております。それでは、主な修正箇所を説明させていただきます。

まず、2ページをごらんください。黄色いマーカーを塗っているところがございます。以前、この審議会でも、企業誘致だけでなく、市内に今立地している企業を大事にするべきだというようなご意見があったかと思いますが、「市内に立地する製造業の設備等への再投資の支援など、市内立地企業の拠点強化及び機能強化を図り、市外への流出を防止します」ということを入れております。

それから、9ページをごらんください。以前、この政策3のところは農業に絞った記述となっておりますが、この審議会でも漁業、林業、一次産業全般について入れたほうがいいのではないかとご指摘もございまして、農林水産業の振興ということで書いております。そして、このページの一番下の丸のところに、「市街地近郊の森林は、市民の憩いの場として利用されており、豊かな森林を守るため、森林保全の担い手である林業者の活動への支援が求められています。また、近年の海域環境の変化に伴い、主要水産物であるノリの生産量の変動や品質低下が起きており、状況の改善を図るとともに、漁船漁業や内水面漁業の漁獲高の減少にも対処していく必要があります」ということを現状と課題に記載いたしております。

また、10ページには施策の方向性ということで、施策④というのを1つ起こしまして、森林の活用と水産業の振興ということで、「林道等の維持管理に努めるとともに、森林境界の確認等の施業集約化を促進します。また、森林公園の維持管理を行い、市民に憩いとレクリエーションの場を提供します」。それから、2つ目の丸として、「ノリ養殖の設備導入に対する支援等により生産基盤の強化を図るとともに、水産関連団体等による岡山産ノリの消費拡大や知名度向上に向けた取組を支援します。また、稚魚の育成や放流等により漁業資源の回復を図るとともに、海岸清掃など漁場環境の保全活動を推進することにより漁獲量の安定化を図ります」というものを追加で記載しております。

それから、13ページをごらんください。政策4の観光・交流の推進でございますが、3つ目の丸のところ、前回、スポーツもコンベンションの1つであるとして扱うべきだというご意見を頂戴しました。実は、ここのコンベンションには当局としてはスポーツも入れたつもりになっていたのですが、文章上明確になっていないということで言葉を補いまして、「岡山コンベンションセンターや岡山県総合グラウンドの立地の良さ等により、国際会議やスポーツ大会を含めたコンベンション開催件数は着実に増加しています」という表現に変更させていただいております。

それから、すみません、少し飛びます。28ページをごらんください。空き家対策を求める声が高まっていることを受けまして、黄色いマーカーのところですが、「老朽化が進み周辺環境に悪影響をもたらす特定空家等への対策については、「岡山市空家等対策計画」や、

法及び条例の規定に基づいて取組を進めていきます」という記述を追加しております。

それから、31ページをごらんください。1つ目の丸のところですが、「岡山市は古代に吉備国と呼ばれた地域の中心に位置しており」という表現に前はなっていたのですが、必ずしも適切ではないのではないかとということで、「重要な一角を占めており」という表現に変更いたしております。

それから、32ページをごらんください。施策の名称でございますが、芸術文化の創造に限定した表現になっておりましたけれども、ここは「歴史・文化資産をいかしたまちの魅力の創造と発信」という表現に改めております。

それから、43ページをごらんください。これは主に市議会で出生率の向上をすべきというようご指摘があったと聞いております。それを受けまして、現状と課題のところ「出生率の向上」という言葉を入れております。それから、44ページのところは、これに伴って施策のほうも「出生率の向上を図ります」という文言を入れております。

それから、50ページでございます。困難を抱える子ども・若者への支援というところで、従来、「既存ネットワークとの連携をより一層強化します」と単に書いていたところを、詳しく「こども総合相談所及び地域こども相談センターを中心とした児童家庭相談体制や、福祉、保健、医療、教育、警察・司法等の関係機関・団体との既存ネットワークとの連携をより一層強化します」ということで、具体的な横の連携がわかるように表現をいたしております。

それから、その下にあるところは、特に今回追加、変更したものではありませんが、前回審議会の中で横の部局横断的な取り組みについてのご指摘がございまして、実はここがまさに部局横断的な取り組みということで、現在、保健福祉局、岡山っ子育て局、教育委員会、市民協働局、経済局と5つの部局が集まってプロジェクトチームを立ち上げて、検討をしております。まだ検討を始めた段階ですので、右のページの主な事務事業の欄には各局の事業が並ぶということにはなってございませんけれども、こういう取り組みをしているということで、重ねてご紹介をさせていただきました。

それから、53ページをごらんください。政策13のところですが、3つ目の丸のところを追加記載しております。「岡山市は、管理的職業従事者に占める女性の割合が10.7%と低いため、企業に対して、働き方改革や職場の意識改革など、女性活躍促進に向けた取組を積極的に進めるよう働きかけていく必要があります」ということで記載しております。

それから、58ページをごらんください。岡山型一貫教育というのがちょっとわかりにくいということで、中学校区を単位とした学校園の連携教育のことだということがわかるように言葉を入れさせていただいております。

それから、73ページをごらんください。前回審議会の場で、ESDプロジェクトに関して若者対象の取り組みをきちんと見せてほしいと、見えるようにしてほしいということがございまして、そこに「学生を対象としたESDに関するインターンシップ等のプログラムの提供」ということを追加で記載しております。

それから、86 ページをごらんください。これも前回の審議会で、介護予防の推進のところが介護予防センターの事業ということになっておりましたが、関連する事業があるはずなので、重複掲載になっても挙げたほうがいいのではないかというご指摘をいただきました。ここに介護予防センター事業のほかに、「健康市民おかやま 21 推進事業」と「生涯現役社会づくり事業」というのを入れさせていただきます。

それから、94 ページをごらんください。セーフティネットの構築のところでございますが、前回、生活保護についての記述が、稼働能力を有する生活保護受給者に対するの記載だけに限定されておりましたので、ここはさまざまな方がいらっしゃいますので、それを想定した記載にしております。「生活保護受給者に対して、日常生活における自立や社会参加の促進など、一人ひとりの状況に応じた支援を行う」ということ。それから、「生活保護費の約半分を占める医療扶助の適正化に向けて、後発医薬品の使用促進や医療機関の適正な受診指導、健康面に着目した支援に取り組みます」ということも追加で入れております。

98 ページをごらんください。総合的な浸水対策の推進ということで、来年2月市議会への議案提出を目指しているということでございますが、「岡山市浸水対策の推進に関する条例（仮）に基づき、市民や事業者が連携した総合的な浸水対策に取り組みます」ということを入れさせていただきます。また、岡山市だけでなく、国や県ときちんと連携をしないと浸水対策は難しいということで、「旭川や笹ヶ瀬川、砂川等、国や県が管理する河川の早期改修等を促進します」という一文を入れております。

それから、102 ページをごらんください。地域防災力の強化のところに、「家庭内備蓄を周知啓発するとともに、災害時に避難所となる小・中学校への分散備蓄を推進し、避難所生活において必要な備蓄物資を備えることにより、市民の安全安心の確保につなげます」というのを追加で記載しております。

それから、106 ページをごらんください。前回、消費弱者というのは高齢者だけではないというご指摘をいただきました。「高齢者や障害者等の消費者トラブルの防止や早期解決を図る」ということで加えさせていただきます。

それから、109 ページをごらんください。近年、PM2.5 とか環境ホルモンなどの未規制化学物質などへの注目が高まっておりますので、そういった表現を入れさせていただきます。

それから、110 ページには、それに対応した施策のほうにも、従来、前は「水質、大気の常時監視等、公害発生抑制の取組を継続する」というように簡単に書いていたところを、1つ丸を起こしまして、ごらんのような形で詳しく記載をさせていただきます。

それから、113 ページをごらんください。「水素」など次世代エネルギーの利活用を推進し」と、その必要性があるということと言及をしております。それから、その下ですけれども、前回の審議会でコンパクトでネットワーク化されたまちづくりこそ環境面でも特に重要な位置づけになるのではないかというご指摘がありましたので、ここに言葉を補っております。

また、それに関連しまして、114 ページの施策の方向性のところでは、丸を1つ起こしまして、「車優先から人優先のまちづくりを進める中で、低炭素型の交通体系をめざし、歩いて楽しい道路空間の整備をはじめ、岡山駅への路面電車の乗り入れや吉備線のLRT化、バス・自転車の利用環境の向上、超小型モビリティの導入可能性の検討など、公共交通中心の環境にやさしい交通ネットワークの構築を進めます」ということで、より具体的にわかりやすい記載に変更しております。

それから、122 ページをごらんください。地方創生の推進のところですが、いわゆる企業版ふるさと納税に岡山市も取り組んでいくということで、「民間企業の参画を促す「地方創生応援税制」等を活用しながら、先駆的な事業を積極的に推進」ということで入れさせていただいております。

それから、一番下のところですが、政令指定都市というのは現在、都道府県のエリアの中にあるということでございますが、政令市が都道府県のエリアから抜けて、都道府県との二重行政を完全に解消すると。完全に同等の権限を有する特別自治市という考え方がございます。すぐに実現するものではないかと思いますが、長い目で見てそういう方向性を目指していくべきということで、「望ましい大都市制度である特別自治市の実現に向け、指定都市市長会等を通じた国等への働きかけを行うなど、積極的な取組を推進していきます」という記載を入れさせていただいております。

分野別計画についての主な変更点は、以上でございます。

では、続きまして区別計画の説明をさせていただきますが、すみません、資料1のほうに戻っていただきたいと思っております。ページが中表紙に入っていないんですが、141 ページ以降が区別計画となります。区別計画につきましては、市議会において各区の区別計画調査特別委員会が設置されたことを受けまして、7月以降、それぞれの委員会で議論を行っております。それを踏まえて案を作成いたしております。

まず、143 ページをごらんください。区づくりの将来目標と重視すべき視点を一覧にしておりますが、これについては各区の該当箇所のところでご説明をさせていただきます。

それから、144 ページをごらんください。各区における人口と高齢化率の見通しということでございまして、北区は青い線です。平成 37 年、42 年をピークに緩やかに減少していく。それから、次は南区が紫ですが、今現在、横ばい状態ということで、平成 32 年まで横ばいで、その後、緩やかに低下していくと。中区については赤い線ですが、北区と同じように平成 37 年、42 年あたりがピークで、その後、緩やかに減少していく。それから、東区については、平成 22 年から既に減少が始まっているということでございます。

それから、その下の高齢化率の見通しについては、東区が既に 30%弱になっているということで、平成 57 年には 40%近くになる見通しです。ほかの3区につきましても、平成 52 年には高齢化率が 30%を超える見通しということでございます。申しわけありません。こここの資料の出典がちょっと間違えておまして、ここは先ほど総論のところの説明したように、実績値は平成 27 年国勢調査の速報値を使っております。平成 32 年以降

が岡山市の独自推計ということでございます。これにつきましても、今推計をやり直しているところでございますので、また新しいデータが出れば、差しかえさせていただきたいと思っております。

それから、145 ページから 153 ページが北区の計画となっております、145 から 147 に概況、148 から 149 に現状と課題ということで記載をしております。この部分は、6月の審議会で区の概況、現状と課題の資料をお示しいたしましたが、これをベースにして修正して整えたものということになっております。

内容は省略をさせていただきます、150 ページをお開きください。そこに北区の区づくりの将来目標と、区づくりの重視すべき視点ということで記載をしております。北区は区域が広くて、都心部から中山間地域まで多様な地域が広がっております。また、城下町、吉備路をはじめとする豊かな歴史・文化資産であったり、桃、ブドウ、黄ニラといった特産品など多様で豊かな地域資源がございます。また、多くの企業、大学、NPOなども立地しています。

こうしたことを踏まえて、区づくりの将来目標としては、「自然と共生し、歴史と文化が薫る 賑わいと交流のまち 北区」、もしくは「自然と共生し、歴史と文化が薫る 人の輝くまち 北区」ということで2つの案を提示しております。また、区づくりの重視すべき視点としては、「都心部の魅力と賑わいを高め、周辺地域の多様な資源をいかす」、「人と人、地域と地域の交流・連携を深める」、「多様な人材が力を発揮し、ともに自らの地域を築く」という3つの視点を案としてお示しをしております。

また、施策の方向性といたしましては、151 ページから 153 ページにかけまして、「まちなかの魅力と賑わいの創出」、「農村部、中山間地域の活性化」、「企業立地の推進」、「歴史・文化など多様な地域資源の再認識と活用・発信」、「まちなかから中山間地域まで、地域特性に応じた交通利便性の向上」、「持続可能で活力のある地域づくり」、「連携・協働による防災・減災、防犯力の高い地域づくり」ということで、7つの方向性をお示ししております。

155 ページからが中区の計画でございます。計画の構成は北区と同様となっております。

160 ページをごらんください。中区は、操山、龍ノ口山ですとか、アユモドキが生息する祇園用水など豊かな水と緑に恵まれると同時に、都心にも比較的近いことから、居住地としての人気が高く、人口増加率、人口密度が4区の中で最も高いという特徴があります。こうしたことを踏まえまして、将来目標としては、「ふれあいと活気にあふれ、快適で住む喜びに満ちたまち 中区」、もしくは「豊かな自然に恵まれ、快適で住む喜びに満ちたまち 中区」という2つの案をお示ししております。

また、区づくりの重視すべき視点としては、「自然」と「便利さ」が調和する住の魅力を高める」、「住」を彩る水と緑、歴史・文化などの地域資源をいかす、「多様な地域の担い手が活躍する」という3つの視点を案としてお示ししております。

また、施策の展開の方向性といたしましては、161 ページから以降でございますが、「交

通利便性の向上」、「豊かな自然環境の保全」、「地域資源の活用と発信」、「多世代の交流・協働による地域づくり」、それから 162 ページの「地域住民の手による防災・防犯力の向上」ということで、5つの方向性をお示ししております。

それから、東区でございます。163 ページ以降が東区の計画ですが、168 ページをごらんください。東区は、先ほど申し上げましたように、4 区の中で唯一人口減少に突入しております。その一方で、西大寺会陽などの伝統行事があり、また地域の結束力が強く、地域主体のイベントも盛んです。また、農業、製造業のウエイトが高いという特徴があることも踏まえまして、区づくりの将来目標としては、「歴史が息づき みんなで創る 誇りと愛着の持てるまち 東区」、もしくは「いつまでも住み続けたい 歴史が息づき愛着の持てるまち 東区」という2つの案をお示ししております。

また、区づくりの重視すべき視点としては、「独自の歴史・伝統・文化をいかす」、「産業・農業を振興し、地域経済を活性化する」、「自然と共生した、安心・快適な暮らしを実現する」という3つの視点を案としてお示ししております。

施策の方向性としたしましては、「地域資源をいかした魅力と賑わいづくり」、「多様な世代が交流・活動できる地域づくり」、「企業立地の推進と持続可能な農業の振興」、それから 170 ページに入りまして、「通利便性の向上」、「健やかに暮らせる地域づくり」、「安全・安心な地域づくり」ということで、6つの方向性をお示ししております。

それから、南区は 173 ページ以降に計画を記載しております。178 ページをごらんください。南区は、児島湖、児島半島などの豊かな自然環境に恵まれ、臨海工業地帯や大規模商業施設がある岡南地区には優良企業も立地しております。また、広大な干拓地は優良農地となっております。区民の防災意識も高くなっております。

こうしたことを踏まえまして、区づくりの将来目標としては、「つながりを大切に笑顔と幸せが広がる、実りのまち 南区」、または「人・まち・自然が調和し、笑顔輝く実りのふるさと 南区」という2つの案をお示ししております。

また、区づくりの重視すべき視点としては、「みんなの力で災害に備え、安全・安心を築く」、「地域の資産をいかし、活力ある未来を創る」、「誰もが快適・健やかに暮らせる環境を整える」という3つの視点を案としてお示ししております。

施策の方向性としては、179 ページのところですが、「地域で取り組む防災・防犯対策の充実」、「活力のある農業の振興」、「多様な担い手の参加・協働による地域活動の活性化」、それから 180 ページに入りまして、「地域の魅力の発掘・発信」、「交通の利便性の向上」、「健やかに暮らせる地域づくり」という6つの方向性をお示ししております。

すみません、大変駆け足の説明で申しわけございませんでしたが、以上で説明を終わらせていただきます。よろしくお願いいたします。

○越宗会長 ありがとうございます。前期中期計画の素案、分野別あるいは区別等々、かなり膨大な資料をまとめて、必要なところの説明をいただきました。これから皆さんか

ら素案につきましてお気づきの点、ご意見、以前の会議での議論を踏まえて、いろいろな部分の修正、あるいは補足、補充等が行われておりますけれども、そういうところを踏まえてご意見をいただきたいと思います。

ここにまず総論があって、それから分野別の計画とあって、最後に区別計画ということでございますが、区別計画につきましては前回審議会でも踏み込んだ皆様からのご意見をいただいておりますが、もちろんこの資料をもとに最後にご意見を頂戴したいと思います。まずは分野別計画のほうを中心的にお話しいただきたいと考えております。

しかし、とにかく分野別の政策でいえば 30、さらに施策は 90 を超えるという非常に多岐、大量にわたっております。この 3 つの将来都市像をもとにご意見をいただこうと思っております。そういう形で、限られた時間でありまして。残りが大体 1 時間 20 分ぐらいで、それを進めさせていただこうと思っております。

それでは、順序に従いまして、まずこの中期計画の総論の部分につきまして、皆さんからご意見がございましたら発言をいただきたいと思います。いかがでしょうか。ご意見がございましたら、どうぞ挙手の上、ご発言いただきたいと思います。

この総論、そんなに分量が多くはないのですけれども、岡山市の強みというのですか、目指すべき方向性というのは、私はここにきっちり盛り込まれておると思っております。十分な内容ではないかなと思っておりますけれども、問題は、あとどう実現させるかということだろうと思っております。とりわけ方向性 2 のところがございますが、「公共交通の利便性を向上させるとともに、道路整備を推進し」というこの議論というのは、これを現実化するために、やはり綿密な計画、実行力というものが問われるのではないかなということを感じました。

いかがでしょうか。皆さん、ご意見をどうぞ。杉山委員さん、何かどうぞ。

○杉山委員 大変膨大な資料を丁寧にまとめていただいて、本当に感謝をしているのですが、やはりこれだけたくさんの方の施策、戦略が出てくると、一体何のために全体的な議論をしてきたのかというのは、いつも兼ね合いがすごく難しくなってくるのだらうと思っております。

この冊子のほうには「未来へ躍動する 桃太郎のまち岡山」という、桃太郎が入ってなくて「未来へ躍動するまち岡山」というふうなことで、やはりそれだと岡山を熊本に変えても静岡に変えてもいいので、あまり意味がないのではないかと思います。「桃太郎」というコンセプトを貫くという意味で、一体「桃太郎」ということをこの考え方の中にどう生かしていくのか、若干へ理屈かもわかりませんが、桃太郎というコンセプト、桃というコンセプトをしっかりそれぞれのところで考えてほしいと思っております。

例えば、岡山は果物王国だと言われるので、東京というか全国と岡山と、一体果物の摂取の種類で違いがあるのかというのをこの前調べてみました。全国的にいうと、一番食べられている果物はイチゴです。岡山では桃なのですね。やはりちゃんと岡山の人は桃を食べている。しかも、摂取量は全国平均に比べて 10 ポイントぐらい高いというデータがあり

ます。

それから、ひょっとするとそういう果糖の多いものを食べると、糖尿予備軍の人が非常に多いかもわからないですけども、果物王国であることは間違いなく、しかもそれが桃であるということで、やはりコンセプトになる桃ということ、できれば可能な限り、それを桃という形で入れるのか、白桃にするのか、桃太郎で入れるのかわからないですけども、何かぜひ考えていってほしいなと思います。

つまり、せっかく長期構想のコンセプトでそういうことを考えたのに、この前期中期計画の中には一部、地域のところでしたか、桃が出てくるだけで、あとはほとんど関係ないということがあるので、できればコンセプトをしっかり貫いて欲しいと思います。また、これだけの長期政策を行うに当たっては、全体の選択と集中ということが当然必要になってくるだろうと思います。岡山の将来を考えると、やはり医療産業の育成みたいところがすごく大切なので、これは産業育成のところでトップに書かれているのですけれども、私はそんなに専門家でないので全て調べているわけではないのですが、岡山にある大きな病院の、例えばメディカルのシステム用のソフトは、全部の病院のソフトが全部違う。つまり、銀行が広域合併をしていろいろな銀行が一緒になったときに、最大のネックは何かというと、どのようにシステム統合をするのかという問題です。

例えば、岡山というのは、医療のまちでもあるのですけれども、では使っている白衣やガウンとか、そういったものを全部統合したらいいのではないかと思います。これもまた業者が全部違うということがあって、これからどのように統合し、育てていくのかということをしっかり考える必要があります。そのためには選択と集中が必要です。どこかに焦点を置いて、それができれば桃太郎のような元気な子どもたちが育つ、そういうまちの岡山になってほしいというような、へ理屈かもわかりませんが、結びつきを考えてほしいなと思いました。

それぞれの部署の方たちが一生懸命考えられて、練り上げてつくられたものだとは思いますが、コンセプトの大切さということをぜひ考えていってほしいなと考えています。

○越宗会長 ありがとうございます。わかりました。また、それは分野別のところでご意見を頂戴します。総論でこのような表現がございましたが、ここについては特に皆様ご意見ございませんね。

1つお伺いしたいのは、このマスカット型の都市構造ですね、コンパクトでネットワーク。これはクラスターという工業用語が岡山風にアレンジされたのではなからうかと思うのですけれども、どうなのでしょうね、市民の皆さんに十分伝わりますかね。これは岡山らしさということでもよろしいでしょうかね。

わかりました。それでは、次に分野別の計画につきまして、ご意見をいただきたいと思っています。これは3つの将来都市像ですね、これに区切って進行していきたいと思っています。

まず、経済・交流都市、これでも政策が10にわたっておりますが、このどこの部分でも結構でございますから、経済・交流都市の実現に向けた政策についてのご意見を伺いたと思います。それでは、どうぞよろしく申し上げます。

藤原委員さん、どうですか。

○藤原委員 今日遅れて申しわけございませんでした。

「地域経済の活性化による、魅力と活力あふれるまちづくり」という中に、「中小企業・小規模企業の育成・支援と経営安定化」というのがございますが、資料を見せていただくと、岡山で起業された方がなかなか成長しにくい環境であると。また、中小企業、小規模企業も、続けていくのが大変困難な状況にある企業が多いというものを見せていただきましたけれども、私は中小企業の経営者でございますので、岡山市がどのような対策を具体的に考えておられるのか、その辺が気になるのと、それから次の政策2の「魅力と賑わいのある中心市街地」、特に表町商店街は、ほんとうに見るも無残な形に今なっていると思いますので、それをどうにか活性化された商店街にさせていただきたいなと思います。

それから、将来都市像の1で、今。

○越宗会長 はい、将来都市像の1で。

○藤原委員 そのことと、あと「歴史と文化が薫り」という、この岡山の歴史を生かす取り組みが、今少しずつ行われていると思いますが、まだまだ不十分な点があるかと思しますので、特に国の史跡の数が京都に次ぐということもありましたけれども、私はそういう認識はあまりなかったものですから、もっと啓蒙活動をしていただいて、岡山は本当に文化の都市として立派な歴史のあるまちだということをPRしていただけたらと思います。

以上です。

○越宗会長 今のご意見の中で、事務局のほうからありますか。どうぞ、お願いします。

○産業政策担当局長 産業政策担当局長でございます。

先ほど中小企業・小規模企業の経営安定という部分で、どのようなことをというご質問をいただきました。岡山市のほうでは、基本的には中小企業振興という大くくりの中で企業支援という部分をさまざまやってきたのですけれども、小規模企業の皆様に対して中小企業と若干ニーズと異なりますか、課題が違うという部分を掘り下げていきまして、中小企業につきましては成長・発展という部分、小規模企業につきましてはいわゆる持続的発展という部分で、経営支援ですとか、いわゆる中小企業に特化した、今現在やっておりますのは、マル経融資という小規模企業に特化したような融資の支援のお手伝いをすると、そういう部分で支援していきたいと思っております。今後とも企業の方のさまざまなニ-

ズ等も把握しながら努めてまいりたいと考えております。

そして、表町商店街の件なんですけれども、何回か過去には商店街調査という格好でアンケートなり商圈調査という部分をやったのですが、今現在の表町商店街自体が50歳以上のいわゆる高齢者の方メインでの店舗構成という部分がございますので、やはりこれから先を考えますと、商店主の方も結構高齢化が進んでいる。こういった方の新陳代謝と申しますか、そういう部分でのいろいろなテナントミックス的な手法での支援も必要であろうと考えておりますし、また、商品構成もある程度若い方を中心にしたような部分も、そういった部分での新しいお店のほうも、空き店舗対策等での対応という部分は必要なのかなと考えております。

今後とも商店街につきましては、店主の方のニーズ、そういったものも把握しながら努めていきたいと考えております。

以上です。

○越宗会長 ありがとうございます。浜田委員さん、何かありますか。

○浜田委員 そうですね、特段表現とかについては意見はございません。さっき杉山先生がご指摘になった岡山は非常に医療産業が発展しているが、いろいろ問題があるのではないかという話で、確かにご指摘のように、ソフトが違うとおっしゃられましたけれど、電子カルテとか、各病院、全部ではないのですけれども、それぞれ直している。したがって、電子カルテを病院間で共通化するというのは、実は言葉で言うと簡単なのですけれども、実際は非常に難しいとか、そういうことがあるのは事実でございます、したがってこれからどうやって連携関係をつくっていくのかというのが、病院間、それから病院と診療所とかの関係でも重要になってくると思いますが、いずれにしても対等なパートナーシップと申しますか、病院間で自由で平等なパートナーシップを結んで、実際に今までは割と競争してきた、非常に病院間の競争が激しかった地域であることも事実なのですが、それにプラス連携関係とか協調関係とかを加えていって、全体としてその魅力を高めていく。それによって全国から魅力のある人と申しますか、そういう人たちを集めてくるというようないい循環を生み出していければいいなと思っております、むしろこの計画そのものは賛成なのですけれども、これをどうやって実現するかと申しますか現場に落とすか、そこがこれから非常に重要になるのかなと考えております。

○越宗会長 泉副会長。

○泉副会長 分野別のところでプラン・ドゥCAが大切だということで、これから成果指標をつくっていくんだということに一応なっているようでございますが、これが一番肝心なことなのじゃないですかね。こういうことに優先順位だとか市の行政のウエイトづけが

よく見える形になると思います。したがって、現状値、平成 27 年度ということ、目標は 5 年後なんだということになりますけれども、当然中間で毎年毎年ぐらい見直しをなさる、ないしは調査をなさるのだろうと思うので、できるだけ早く現状値の平成 27 年度分を、項目を固めることと調査を早く実施されてプラン・ドゥ C A がうまく回転するようになさったらどうかと思います。

○越宗会長 どうぞ。

○岡本委員 泉副会長と同じ意見です。成果指標を見せていただきますと数にばらつきがありまして、評価というのは多角的にするものですので、少なくとも施策 1 個に 1 つ、できれば 2 つぐらいの成果指標があつて多面的に整えられたらどうかと思いました。

成果指標については以上で、ちょっと前に戻って全体のところの話で質問があるのですが、中期計画素案の 7 ページのところに「前期中期計画の構成」という図があつて、長期構想、基本目標、3 つの将来都市像と、都市づくりの基本方向 10 個と書かれている。これが資料 3 に示されたものだということはすつとわかる。分野別、区別計画というものもわかる。

しかし、10 ページ、11 ページの、「将来の都市の形」の方向性 1、方向性 2 に示されていることが、7 ページの全体像の図でいうとどこに当たるのかということが、市民の人たちが見たときに疑問を抱くのではないかなと思いました。その説明がきちんとつくようにしておいたほうがいいかと思いました。

杉山委員がおっしゃったように、長期構想にぼーんと、前に素敵なのができたとということで申し上げた「桃太郎のまち岡山」というキャッチフレーズがあつて、だけど、前期中期計画の 1 つ目としては「マスカット型都市構造」をマスカットで示している。では後期中期計画になると、何で示すのかと思ってしまう。その一貫性ということがうまく説明がつくようにご準備されたらいいかと思いました。

以上です。

○越宗会長 ありがとうございます。どうぞ、片山委員さん。

○片山委員 交通利便性のご説明を伺いました。先日後期高齢者の自動車運転免許の講習会に行きましたところ、来年 4 月から認知症の検査など厳しくなり、高齢者は免許証の継続が今までより難しくなるということを聞きました。ということは、これから先、地方といますか中山間地域の方々をはじめとする遠方に住む方々はますます生活しづらくなってきます。大変重要なことなので、国も対策を考えてくると思います。国と連携をとって、もっと生活のための足の確保ということを具体的に考えていただけたらと思います。

以上です。

○越宗会長 ありがとうございます。目標値を現実的にするための計画とか、どういう実行プランか、そのあたりが関心事になってくると思いますね、本当にね。

何人かの方が「桃太郎のまち岡山」にちょっと触れられたのですけれども、政策4の施策③に「桃太郎」をイメージ・体感できる観光素材づくり」というのがありますけれども、では情報発信等いろいろなさるにしても、本当に「桃太郎のまち岡山」を定着させるのはなかなか難しい問題ではないかと思います。やはり前も私自身申し上げたことがあると思うのですけれども、桃太郎というイメージですね。これはもちろん強い、そして健康的であるというような、そういうようなプラスイメージがあるのですけれども、同時に仲間と助け合って協働するという、そういう桃太郎像というものもやはり捉えていく必要があるのではないかなと思います。そういうふうにすると岡山の福祉施策等にも広がっていくだろうと思いますし、そういう中で新しい今の岡山の桃太郎のストーリーというのを、例えば広報したり、そういうふうな形でつくっていくことも考えてもいいのではないかなと思いますね。

ご存じのようにJRの岡山駅で備前焼のガチャ桃太郎という、イベントというかやっております、これは大変な人気で、500円ぐらいで大変楽しい、備前焼の桃太郎関係のものが手に入るということで、観光客だけじゃなしに地元の方にも人気があるしというふうな、そういったことを含めて、もう少し情報発信にはいろいろ知恵を絞っていただきたいなど、そのようなことを思っています。

よろしゅうございますか、将来都市像Iの部分でのご意見は、ほかには特にございませんか。どうぞ。

○塩見委員 本当によくまとまっていると思うのですが、杉山先生もおっしゃったような「桃太郎のまち岡山」を強調した長期構想なのですが、中期のところであえて「マスカット型都市構造」といいますか、果物の生産が岡山は桃もマスカットもあるのですけれど、ここでマスカットを入れる必要があるのかなというのもちょっと考え、今初めて見たのですけど、ここですのならここを大きな桃の形にして、何か雰囲気膨らませるというふうなことが考えられないのかなということをちょっと、今とつさに思ったことなので、はっきりとイメージがまだ湧いておりませんが、そんなことを思いました。

○越宗会長 ありがとうございます。はい、どうぞ。

○杉山委員 僕の調査によると、岡山県で桃とマスカットは第4位です。全国的に見ると第6位。やはり桃、マスカットというのは多いんだろうと思います。多分こちらについては、先ほど会長がおっしゃられたようにクラスター理論ということで多分マスカットということを入れられたと思うのですけど、僕もできたら桃のほうがいいんじゃないかなと思

ったのですが、桃だとやはり真ん中に芯があって、どうそれをまとめ上げるかというのがちょっと難しいかなとも思います。マスカットでここはよいのかも知れません。

○越宗会長 もし一考の余地がありましたらということで。どうぞ。

○清板委員 私はこのマスカット型を利用したのはなかなかいいなと思いました。この緑もとてもきれいですし、それからマスカットというのは一つ一つの実がとっても充実していて、1つあってうれしい。やはりつながった果物でありながら一つ一つがとってもきちんと完成している、そういう果物だと思うのですね。それを岡山市の拠点になぞらえて、一つ一つを充実させていって魅力的なものにして、それを都心がつなぐというような発想というのはすばらしいなと思った次第です。

それから、桃太郎という大きなテーマと、それから岡山を代表する、全国的にも知られているマスカットというイメージが重なってできているので、場所によってはこれを読んだときに、あれこれ盛りだくさんだなというようなちょっとイメージを持たされるというか、そういう感じもするのかなという気持ちがありました。

しかし、桃太郎の話というのは、吉備だんごをあげて、「一緒にやってくれるか」というふうにキジや動物たちを誘うものでありまして、動機づけをするという、心理学的に言いますと強い動機を持たせて集団をつくっていくというふうな、そういうお話だと思うのですね。それは市が中心になって市民の人たち、あるいは国に対して動機づけをきちんとしていって、1つにまとまった活動をしていくというふうな、そういう意味では桃太郎というのはなかなか魅力的なストーリーだと思います。これを読んでいると、桃太郎についての意味づけが、すごく単純に魅力的なまちだというふうなこととしか説明できていないので、どうせ桃太郎として取り上げるのなら、もう少し桃太郎の概念をもう少し盛り込んでいってもいいのではないかなと思いました。

○越宗会長 ありがとうございます。マスカット、すばらしいじゃないかという擁護論もございますので。

それでは、時間の関係もありますので、次のパートⅡ「子育て・教育都市」の実現に向けまして、政策の11から19ですね。ここについてのご意見をいただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。阿部委員さん、どうぞ。

○阿部典子委員 すみません、全体的な話でもいいですか。

先ほどあった成果指標が、それぞれにあったほうが、やはり何のためにそれをしていくのかというのがわかりやすくていいのではないかなと思いました。それぞれ、かなり分厚く、充実したまとめ方をされているので、なかなかその優先順位とか強弱が逆に見えづらくなってしまっているのは、難しいところだとは思いますが、そのときにやはりこれは全部、市の職員さんが先頭に立ってやる話なのかということ、そういうことではな

くて、それぞれの役割があつて、住民が担わなきゃいけない役割のところも、特にそういう分野もやはり大きくなっていくので、役割を整理した上で、その人たちに対してどう支援していくかというような、そういうお考え方で少し整理ができていったらいいのかなというふうに聞かせてもらっていて。

ちょうどさっき桃太郎の話があつたのですけれども、桃太郎の話というのは確かにいろんな、何かやるべきビジョンを掲げて、そういう人たちが少しずつ増えていって仲間になっていくという、そういうお話でもあるなと思うので、何のために、どういうビジョンをみんなに見せたら、それによってみんなが参加できるかというような、そういうことを一つ何かストーリーというようにおっしゃられましたけれども、そういうところをイメージして巻き込みを図るといふか、事業所さんが紹介されているところとか、市民とか、本当いろいろなセクターとつながっていくというイメージを、多分成果指標をつくるとか役割分担を明確にする、そして「一緒にやりませんか」という呼びかけをするという、そういうところがあるよこの「桃太郎の」という柱も見えてくるのかなと思いました。すみません、全体の話で。

○越宗会長 ありがとうございます。どうぞ。

○杉山委員 本当は実は、桃太郎って、桃が流れてきて、それを拾ってきて、そういうことから多分物語がスタートしていくのだろうと思うのですが、桃太郎の話はさておき、実は今大学で一番困っておりますのは、学生たちが経済的困窮で学校をやめてしまうということが非常に多くなってきています。差別用語でも何でもなくて、多くの場合、実はいろいろお話を聞いてみると、離婚家庭でお母様が子どもを引き取られ、お母様と一緒に住んで育っていくという場合が非常に多いのです。今、政府のほうも給付型の奨学金をふやしておりますけれども、実際にほかの大学はどうかわかりませんが、かなり目立って増えてきておりますので、大学生でも何らかの給付が一部受けられるような、そういうのをぜひ検討して入れておいていただけると非常にありがたいなと思います。今後このような経済困窮学生はもっと増えていくのではないかということをご懸念しています。

○越宗会長 どうぞ。

○片山委員 政策14の中の、最後の「一人ひとりの育ちを支える指導・支援の充実」の一番最後に「日本語指導講師派遣事業」というのがありまして、日本語の能力が十分でない外国人児童生徒への日本語指導及び適応指導等の実施ということが盛り込まれております。外務省のほうでも増加傾向にある外国人児童生徒への日本語指導に関しては文部科学省と地方自治体、地元企業など、連携強化を促す方針を掲げたという新聞記事を読みました。日本語教育のため教師を派遣するというのもいいことですが、教師を1人派遣することとはかなりコストのかかることだと思います。今、英語では低コストで地方でも

大丈夫ということで、オンラインの英会話というのを公立の小学校が取り入れているということを知ったことがあります。それで、日本語教育も教材を工夫してオンライン、ウェブの授業を取り入れるということを考えてはどうかと思います。英語もそうなのですけれども、言語にふれるより多くの機会を子どもたちに与えるということが言語習得に大事なことはないかと思いますが、教師派遣だけではなくて、オンラインとか、またウェブとか、そういったITの機器を利用することも考えてはどうかと思います。

以上です。

○越宗会長 ありがとうございます。ほかにございませんか。どうぞ、清板さん。

○清板委員 先ほど杉山先生もご指摘されたのですが、若者がまともに働けるかとか、若者がまともに学業を努力ができるかというような、そこら辺は本当に厳しい状況にあると思います。先生もご指摘でしたが、例えば私の勤めているノートルダム清心女子大学でも3分の1の学生が奨学金を受けています。その返済のめどが立たないという学生も大変たくさんいますし、その保証人になる親たちがもう当てにならないというふうな、本当に先がとても暗いという中で学業で続けている学生たちもとても多くなっています。ご指摘のとおり単身、片親の家庭も多いですし、その方を支えている母親の収入が少なく、年間100万円台の収入の学生が奨学金を求めてくるというようなのが決して珍しくないというのが現状です。

そのような視点から見ると、やはりこの政策の中で若者の現実的な社会へのアクセスをどのようにサポートしていくかというふうなことについて、少し足らなかったかなというふうな感じはしています。発言の機会があったにもかかわらず、そこで十分発言できていなかったという責任を感じるころでもありますが、若者がいろいろ社会参加できたらいいとかNPOなどで活躍できたらいいというのは、基本がある上にプラスアルファのことについては指摘されているのですが、基盤のところをどうやって守ってやってやるかという、そういったところがもう少し具体的なことで書き込まれるべきだったかなという気持ちがあります。

それからもう1点、話が変わるのですが、この成果指標は皆さんが先ほどからご指摘があったのですが、成果指標というのは施策に対しての成果指標ですので、このまま載るとしたら施策同士の成果指標が来るべきかなと思います。成果指標に何を掲げるかによってまさに狙っているところがわかるというふうになると思います。この施策はさまざまな評価をするので、たくさんいいことが書いてあるという感じなのですが、成果指標を出して初めて「あっ、こういうことを岡山市は狙っていて、そこを実現しようとしているんだな」というふうなことが見えちゃうというか、あれっというか、明らかになる。そこの狙いをきちんと持っているかどうかということがわかるころだと思います。ですので、成果指標はこれからまだこの先、評価されて、補足されていくのかなと思いつつこの資料を見た

のですが、成果指標のところ割と少し曖昧なところとか、ちょっとデータを取りやすいものというか、そのような感じになっているような気がいたしました。具体的な提案はできないのですが、そんな感じがしました。

○越宗会長 より市民が理解しやすいというか、そういうような表現の仕方なり編集というか、同じ施策の方向性を出して、成果指標をそういうふうな、そこに置くとか、そういう工夫が必要であるというご意見で。どうぞ、事務局から。

○事務局（門田） 事務局でございます。

先ほどから成果指標のご意見、たくさん頂戴しております。ありがとうございます。それで、すみません、説明を先にさせていただければよかったのですが、今こちらで設定しております成果指標というのは、政策単位で設定するというのを基本的な考え方しております。1つには総合計画ということで、岡山市の一番上位の計画、基本になる計画ということで、個別の計画の中では細かい指標を設定しているものがたくさんあるのですが、ここは基本的には大きな計画ということで、指標のほうも数をちょっと絞った形で考えております。その政策単位で、政策ごとに複数設定したいということで考えております。

ただ、実際には成果指標というのがなかなかデータが取れないものが多いといいますが、「こんなのがあったらいいな」と思っても急にデータが取れないものが多いものですから、実際はその設定可能なデータを見ながら「じゃ、これを指標として設定しようか」ということで考えていくというような形になりますので、新しい成果指標を設定する場合には新たに例えば市民意識調査で項目を追加するとか、そういうことをやって、基準値を新たにつくってやっていくというようなことも必要になってまいります。

今、ここにお示ししている指標は、政策全体の効果を図る指標と、複数の施策にまたがる指標と、1つの施策に関する指標とが混在した状態になっております。1つの施策に関するものであっても適切な指標がない場合は、特にその中で代表する事業の効果、本来であればアウトプットと言われるような指標をもって代替するようなことも出ておまして、種々検討する中で、現時点では今申しましたような考え方で、政策単位で可能な限り複数設定するというので、結果として今30の政策、91の施策に対して、指標の数が今88ということで、ほぼほぼ施策の数に近いぐらいの数になっているという、結果としてでございますが、そんな状況になってございます。

説明が後からになって、申しわけございませんでした。

○越宗委員 ありがとうございます。ということでございますので。

そのほか、ございませんか。どうぞ。

○藤原委員 私が常日ごろから申し上げています、人口をいかに増やすか、岡山市を安心して子育てができるモデル都市のようにするにはどのようにすればいいのかと申し上げていたと思うのですが、4番の「安心して子育てができ、若者や女性が輝くまちづくり」、これを縦割りではなくて横の連携をとって進めていこうというご発言がございまして、大変結構だと思います。

そして特に、今大学生の問題を先生方がおっしゃっておられましたけれども、それは大学生だけではなくて、小学校のときから本当に食べることに大変苦勞して、生活をしている小さな子どもたちがたくさんいるという現状を、本当に毎日のように私は耳にいたします。

この前テレビで、シングルマザーで40歳で3人の子どもを育てている。1週間に4日しか行けないので、10万円しか収入が入らない。それで家賃を払うと残りが4万円。だけれども、3カ所から補助金をいただいて、30万弱の生活ができていますので、子どもたちは本当に生き生きと楽しそうに母親と生活をしていると、テレビで放映されておりましたけれども、やはり岡山市としてはそういう家庭に対して、「こういう補助ができますよ」「こういうふうに助けることができますよ」ということをもっともっとPRして、そういう家庭が少しでも困難から解放されるように。私は、本当に小さな子どもが食べるにも困っているなんていうのは日本で考えられないような環境と思っていましたけど、そうではなかったのです。それをよく皆様方にご理解いただいて、そういう家庭が少なくなるようにしていただきたいと思います。

○越宗会長 最初に阿部委員さんが、行政だけじゃなくて個々の施策展開も、あるいは民間の活力とか、そういうものうまく使いながら実現していくというようなご意見がございましたけれども、ここの例えば政策11のところの施策①あたりに放課後児童クラブという言葉がございましてけれども、阿部委員さん、岡山市がそういう意味では全国的に注目されている放課後児童クラブ先進地というふうにも言われておるわけですから、例えばNPO法人ってあるのですよね。非常に活発な活動がされているでしょう。事務局が岡山市内にありまして。ですから、そういうことを一々文言を入れるかどうかは別にして、やはりそういう特徴的なものには、例えば「NPOと連携し」とか何とか、そういう文言というものを加えてもいいのかなという気がいたしましたね。

それでは、次に移りたいと思います。今度は「健康福祉・環境都市」と「都市経営」、これに関する政策は20から30までにございますので、ここについてのご意見を伺いたしたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。どうぞ。

○阿部典子委員 どうしてもさっきの成果指標の話に戻ってしまうのですが、私たち、この計画を見せていただいて、根本的には特に何をどう改善ということもなくて、多分基本的にはこれをどう実現させるかということこれから考えるのだらうなと思って、「こう

書いてください」ということは思っていないですけど、やはりこの成果指標はこれからいろいろ考えていかれるのかどうかというのを、もう1回教えていただきたいのです。

というのが、今回のところで言うと、政策の21であるとか、例えばここに「地域包括ケアシステムの構築」などなど4つあって、「豊富な医療・介護資源をいかした安心の暮らしづくり」というのがありますけど、この柱、政策に対しての成果指標がこの3つということで本当にいいだろうかとということが、生活支援サポーターさんとかいろんな方の養成、少し事業をしているというか、わかると、これが増えたから結局これが実現されるのかなというところがどうしてもやはり気になったりするところで。

例えば、前の項目で言うと73ページの支援活動の話だったり、「多様な主体による協働のまちづくり」とありますけど、その中でも安心・安全ネットワークの数が、企業、NPO法人が参加した安全・安心ネットワークの数が増えるといいのかという話になってくると、多分地域で自分が何を一番大事な体制とか組織と思っているかによってまた全然違って来る部分があると思うんですけど、いたずらに数えやすい指標の数だけを見ちゃうと、どうしてもその数を増やすということにまず目標が置かれてしまって、例えばさっきの福祉の面で言うと、ひとり暮らしで心配だなということで報告が上がっているひとり暮らし高齢者で、地域とのつながりがない人の数が減っていくかどうかとか、そういうことのほうが大事だったりする側面があるんじゃないかなと思うので、今この計画がというよりは、これから実現させる上でやはり的確な、それはまだ先の話になって、今回のことではないのかもしれないのですけれども、そういう的確な目標設定ということはやはり大事になるんじゃないかなと思いますし、もし、もうちょっと総合的なものだということであれば、もう少し目標の設定を逆にちょっとぼんやりさせるというか、難しいんだけど、そういうことが大事だったりしないのかなとちょっと思ひまして、すみません、何を言っているのか、自分でもわからないですけど。

○越宗会長 今のご意見について、事務局から。

○事務局（門田） ご意見ありがとうございます。

正直、成果指標のところは各部局のほうでも考えていただいているのですが、いろいろやりとりをして、もっとふさわしい指標はないのかなという議論をしたところもあるのですが、統計で取れるもの、データで把握できるものはなかなか限られている中で、今設定しているということがございます。これが、本来最も美しいのは、ここに挙がっている政策をやった結果として、こういう確実に因果関係があって、それが伸びていくというようなものが一番いいわけですが、なかなかそういう美しい関係にある指標というのは難しいというのが実態です。

それと、最初委員がおっしゃってくださったように、行政だけでやれるものではなくて、市民の方とか事業者の方とか、いろんなところがかかり合って、全体として成果を出し

ていくという、まちづくりなので、どうしても企業が掲げる指標のようにわかりやすいものにはちょっとなりにくいところがあるのかなと思っています。

なので、正直申しますと、この成果指標がこの全てといいましょうか、この計画の成否が成果指標の達成状況で全てわかるというようなものになるというふうには考えておりませんで、むしろ基本的には、振り返る際にはこの施策が5年間こういうことをやっていこうとしていたけれども、2年間たって例えばここまでできて、残り3年でじゃこういうふうにしていこうかというようなことを考えるときに、1つの材料として成果指標のほうも参照しながら考えていくという、現実にはそういう形で活用していくことになろうかなと思っておりまして、指標が全てというふうな指標が設定できれば一番いいのですけれども、そこまでは難しいのかなというのが現実の実態でございます。

○越宗会長 ということでございますが、よろしいですか。なかなか一律には言えないところが確かにありますね。はい、どうぞ。

○浜田委員 今の阿部委員と事務局のやりとりは、非常によくわかるような気がします。それで、成果指標は確かに大事なのですが、なかなか成果指標だけでは評価できないと思いますか、確かに地域包括ケアって、何で評価するのか、非常に難しいような感じもします。

したがってということなのですが、PDCAサイクルということで、Cが一番大事だと。それは確かにそうなのですが、やはりドゥのほうもかなり大事なのだなと思っています。確かに今回の計画では協働といいますか、市役所だけじゃなくしていろんな主体を巻き込んでやっていこうというお話になっていまして、そこもすごく大事なのかなと。どうやってこの計画、計画はすごく内容は優れていると思うのですが、これをどうやって地域住民におろしていくか、あるいはいろんなNPOだとか企業とか大学とか、そういうものとどうやってコラボレーションするのかと、そこらの工夫がこれから必要なのかなと思います。

例えば、医療・介護とかでも、建部と清輝橋ではかなり問題が違うような気もしますし、したがってこの計画を中心にして、実際その地域の問題というのは何なのかというのをみんなで語り合えるような、そういう流れができるとよいか。その工夫が一つ必要なのかなと考えます。

○越宗会長 浜田委員さんのご意見ですけれども、何か。よろしいですか、ご意見として。どうぞ、阿部委員さん。

○阿部典子委員 ありがとうございます。浜田委員さんがおっしゃっていただいたような、私自身が本当に思うところとして、大きなイメージとか全体のことと、それから、じゃ自

分たちがするために何をしていかなきゃいけないのかというのは、本当に個人に近い、より小さな固まりでやっていかなきゃいけないことだと思うので、そういう意味で先ほどもおっしゃられたような、じゃ、これをどう読み解くのかというような、そういう場が、それぞれのセクターだったりそれぞれの地域だったりそれぞれの年齢構成だったりというようなところで、じゃあ、自分たちはこういうことをやっていこう、こういう目標でやっていこうということが具体的に考えられるような、そういう場がつくられていくと、より皆さんが共同で参加するということができるいくんじゃないかなと思いました。ありがとうございました。

○越宗会長 ありがとうございます。どうぞ。

○清板委員 成果指標のことにこだわっているのですが、例えば私は教育のところを熱心に見ていたんで、例えば58ページの政策14のところ、ほかのところあたり、20からのところにもそれに似たようなものがあるのですが、例えばその「知・徳・体の調和のとれた自立する子どもの育成」ということの中の施策の③で、「健康教育の充実による健やかな体の育成」ということが施策として掲げられて、それに対していろんな事業が施策の③のところでは挙げられているわけです。

これに対しての成果というのが、例えば「1週間の総運動時間が60分以上の子どもの割合」が増えたかというようなことで測るというふうな形になっているわけです。それは確かに健康な体ができたり健康な生活の子どもが増えているのかなということを見ることはできるのですが、その結論を見るということと、それから事業そのものがどのように増えていったかとか事業がどう発展していったか。つまり、ルールがどのようにこの施策ができたことによって発展していつているかということを見たいという市民の気持ちもあるんじゃないかなと思います。結論として子どもが元気になったところを見るのももちろん見たいかもしれないのですが、そのあたりの成果というのが、2つの段階があるかと思えます。

○越宗会長 ありがとうございます。どうぞ。

○岡本委員 施策の成果指標ということで、大きく言ってこの総合計画におけるアウトカム、あるいはアウトプット、あるいはストラクチャーの評価が、ここに示す成果指標になると思います。各部局におろしたときに実施する評価は、各部局がプロセス評価やアウトプット評価など、細かい評価デザインを考えていくべきことだと思います。全体の評価デザインを、この総合計画において、各部局の実施において、どのようなやり方でいくのかということが、全市共通の理解のもと進められるのが望ましいと考えます。

○越宗会長 ありがとうございます。どうぞ、事務局のほうから。

○事務局（門田） 今、貴重なご意見、ありがとうございます。

これまでも岡山市は、特に対外的に公表していないのであまり言えないのですけれども、各部局では個別事業の中で重要な事業についてはアウトプット指標というのを一応設定して、事業量であったりする場合もありますけれども、そういう事業ごとの指標というのを見ながら翌年度の予算を考えるというようなことも毎年行っているところでございます。その中で、この総合計画のほうはできるだけアウトカムのほうを中心にしていきたいという中で、一部アウトプット的な要素があるものも紛れ込んでいるというのが実態だということでございます。両方、この計画全体を見るための指標ということで、今回は成果指標ということで、十分ではないかもしれませんが、案としてお示しさせていただいているということでございます。

○越宗会長 ありがとうございます。いろいろ貴重なご意見が出ましたし、事務局のほうのそういったお考えで、そうやるということでございますので。

それでは、すみません、時間もそうございませぬので、分野別計画はこれで終わりました、最後に区別計画がございませぬけれども、これにつきまして何かご意見がある方はおっしゃっていただきたいと思っております。いかがでしょうか。どうぞ。

○岡本委員 区別計画は、各区で頑張っていくよという計画なのですけれども、最初のコンセプトのところ「マスカット型都市構造」が示されていて、「コンパクトでネットワーク化された都市」ということを示されています。このマスカットがこのままとおるのか、私的には桃よりマスカットが好きなのでいいなあと思っているところなのですけれども、吉備だんごではだめなのかどうか。そこで、各区の施策の展開の方向性の中に、各区が自己解決する内容ばかりではなく、区間連携といいますかネットワークに関する内容、それを模索した内容を入れるように推奨してはどうかと思いました。

特に確かなのは高齢化率が上がるということで、いろんな区から若者が入ってきて、「あっ、ここ、ええやん」ということで移り住んでいく巡りをつくってほしいなと思うので、ネットワークに関する文言が各区の中に入っているとよりよいと思いました。

以上です。

○越宗会長 ありがとうございます。ほかにはございませぬか。どうぞ。

○阿部典子委員 各区の特徴を捉えた施策、方向性とか施策展開の内容になっていると思うのですが、やはりもうこれはしょうがないなと思っていながら、どうしてもやはり北区は、かなりいろんなエリアといろんな性質の地域を抱えているというところで、多様

なというところで落とし込むしかないのかなと思いながら、ちょっと見させてもらいましたが、考えがちゃんとしてませんので。

○越宗会長 どうぞ。

○泉副会長 テーマが2つ案があるのですけれども、これはどっちかに決めましょうよということなのですか。「こういうのがありますよ」「あっ、そうだな」と、そんな感じですか。

○事務局（門田） 事務局でございます。

最初ちょっとご説明をさせていただいたときに申しましたように、区別計画については市議会のほうで各区ごとに特別委員会が設置されて、そこで議論をしているものの現時点での努力案ということでございまして、これをまた区別の委員会のほうに審議していただくと思っております、そこで絞っていかうとは思っておりますが、もし何かご意見がございましたらお聞かせいただければと思っております。そういう流れで考えております。

○泉副会長 ここで審議しないといけないかどうかだけを持ち帰って。

○越宗会長 ということでございますけれども、よろしいでしょうか。ありがとうございました。

それでは、ほかにないようでしたら、協議事項の（2）にその他がございしますが、事務局から何かございますでしょうか。

3 協議事項（2）その他

○事務局（門田） 今後の日程でございますけれども、本日のご審議を踏まえまして、素案として整えた上で、市議会でご議論いただくとともに、パブリックコメントの実施などで広く市民の皆様からご意見をいただいた上で、2月の定例市議会への議案提出ということで作業を進めてまいりたいと考えております。

なお、最初会長さんからおっしゃっていただきましたように、前期中期計画策定に向けた審議会の開催は、一応本日が最後という予定でございますが、現在の委員の皆様には引き続き委員をお引き受けいただけるということで、全員のご了承をいただいておりますので、もし改めて審議の必要が生じた場合にはこのメンバーでお集まりいただいてご議論いただきたいと考えておりますので、何とぞよろしくお願い申し上げます。

以上です。

○越宗会長 ありがとうございます。

それでは本日の審議会、締めくくりで、最後に大森市長さんから一言お願いしたいと思います。

○大森市長 計画も締めの段階に入りました。本当にどうもありがとうございました。

最初、この審議会に集まったときは、この会議室、下はタイルが剥げ、横の白壁はひびが入り、あまり人を迎える会議室ではなかったのですが、この基本政策審議会のためというわけではございませんけれども、人を迎えるためにはやはりある程度の部屋が必要ではないかということで、最後の会議になるかどうかはつきりしませんけれども、一応完成の姿でお迎えをさせていただきました。

それから、全体を通して「桃太郎のまち岡山」ということで、いろんな発信をしていこうという話がありますけれども、実は発信量は相当岡山はできていると思っております。

まず1つは、ご議論がありました人口問題は、岡山の場合、転入増がやはり続いております。中四国の中では最も高い転入という状況になっているというようなこともあり、また、さまざまなコンベンション、いろいろなことで今結構岡山というのは注目されているのではないかなと思っているところであります。今後、メディアの力というのが非常に大きいわけですから、我々としてはメディアに書いていただけるように、また放送していただけるようにさまざまな工夫をしていきたいと思っております。そういう面では、中に桃太郎というものをどう盛り込んでいくのかということについては、また検討させていただきたいと思っております。

2点目ですけれども、社会構造の変化というのがこのごろ激し過ぎて、なかなか対応ができていないというところがあります。1つには核家族、また今離婚の話もありました。それからあと、非正規職員で、特に若い人たちの収入が非常に減っています。そういったところから、今よく言われる言葉は「子どもの貧困」ということで、10%が今16%、6人に1人が貧困というふうになっているところであります。

子育て環境をどうしていくか、大きな問題でありまして、岡山の待機児童の話は皆さんお話を承知していただいていると思いますが、待機児童が多いというだけではなくて、実は保育料は政令都市の中で最も高いものであります。子育て環境を整えるという中でこういう保育の環境がいいかどうかというのは、私はそうじゃないと思っているところであります。その改正をもう少ししたら提案をしていきたいと思っております。

ただ、この環境を整えるというのはそう易しいことではなくて、岡山市が持っている今までの保育園、幼稚園また小学校を含めてのいろんな体質があります。そういう中で出てきているところがありまして、財政をあまり変な形にしちゃうと大変なことになるわけがありますから、そういったところを踏まえながら一つ一つステップアップしていきたいと思っております。

それからあと、高齢化の問題も大変大きな話でありまして、今日も公共交通のネットワークの話がありました。そこも今、生活交通の確保対策などをやっているところでありますが、私としては各地域から本当に多くの意見は寄せられております。今日のご議論でもあったように公共交通についてはもう少し全体を抜本的に変えていくというか、将来のビジョンをもう少し整理する必要があるのではないかなと思っているところであります。まだ考えの段階で、こういう計画の中にはあまり明確には出せなかったのですが、そういうようなこと、一つ一つあります。

また、地域包括ケアの問題もあるわけでありまして、方向性はできているものの具体的にどう動いていくのか、今一つによくみんなが完全に一致しているわけではない。こんな状況になっているのかなど。

ほかにも申し上げたいことは山ほどあるわけでありまして、本当にこの基本政策審議会で、大きな方向性といいますか、それをさまざまな視点からご指摘をいただいたかなと思っております。これについては、今日の意見を踏まえて少し修正して市議会に提出させていただきたいと思っておりますが、またひょっとしたらお力も借りなければならぬいかもしれませんけれども、そういうことで本当にありがとうございました。これからもよろしく願い申し上げます。

○事務局（植月） これをもちまして、本日の平成 28 年度第 3 回岡山市基本政策審議会を閉会いたします。皆様、大変お疲れさまでございました。

閉会